

広報せとうち 8 令和4年 月号

絆で創る、魅力あふれる豊かな町づくり | みんなで早寝、早起き、ラジオ体操、朝ごはん！



※写真撮影時のみマスクを外しています。

まちの人口と世帯 住民基本台帳 令和4年6月末

人口 | 合計
8,474 人 (前月比: - 2)

人口 | 男
4,173 人 (前月比: +1)

人口 | 女
4,301 人 (前月比: - 3)

世帯数 | 合計
5,186 世帯 (前月比: ±0)



もくじ —information—

- 02 | pick up news
「奄美シーカヤックマラソン IN 加計呂麻大会」
「ドローン配送試験飛行」
- 04 | 8月のお知らせ
- 22 | まちのできごと
- 26 | 古高だより
- 27 | 戸籍の窓
- 27 | 8月休日当番医のお知らせ

7月3日（日）競技は中止となりましたが、思い出に残る30回記念大会に

奄美シーカヤックマラソン IN 加計呂麻大会



1993（平成5）年に始まり、今年で30回を迎えた本大会には、18部門に249艇・368人がエントリーされていましたが、大会当日の天候不良が予想されたため、競技は中止となりました。

3大会連続で中止となり、大会を楽しみにされていた皆さま、大会開催に向けてお力添えをいただいた皆さまへ、30回記念大会を少しでも思い出に残る大会にしたいと、表彰式・お楽しみ抽選会・ライブコンサートをきゅら島交流館にて行いました。

「海は世界をつなぐ、人をつなぐ」のキャッチフレーズのもと、来年は、大島海峡でお会いできることを楽しみにしています。

奄美シーカヤックマラソン

IN 加計呂麻大会事務局

表彰式

30回連続出場（中止となった大会を含む）された4人の方々へ、ご氏名の彫刻入り記念焼酎ボトルが贈られました。（個別インタビューは左ページに掲載しています。）



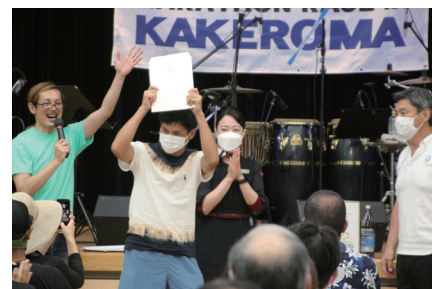
ライブコンサート

今年でデビュー20周年を迎えられた元ちとせさんの歌声が、選手や大会関係者の皆さま、会場全体を魅了しました。



お楽しみ抽選会

素敵な景品が盛りだくさん！のお楽しみ抽選会！協賛各社様、本当にありがとうございます。



古仁屋青年団の皆さん

平成9・10年生の皆さんです。会場準備・片付けなど、運営を補助していただきました。



pick up

6月29日(水)～30日(木) アイスが空を飛んできた!

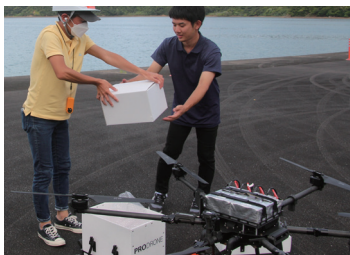
ドローン 配送試験飛行



大きさは1.9m×2.0m×0.5m
古仁屋港～瀬相港間を12～13分で飛行しました

古仁屋港と瀬相港に設定した「ゆらぎんちゅ(離発着地点)」にて、①欲しい商品を注文↓②スタッフが買い物を代行、商品をドローンに搭載↓③ドローンが商品をお届け、という流れで行われ、2日間で計7往復、ドローンが飛行しました。

古仁屋港を出発したアイスやお菓子は、すべて無事に瀬相港に到着し、待っていた皆さんへ振る舞われました。日用品配送だけでなく、医薬品の輸送や災害時の情報収集、支援物資の受け取りなど、物資や情報の「発信・受取・共有」をめざします。



シーカヤックマラソン大会連続出場の皆様へお伺いしました!

出場のきっかけ、今大会への思い・ご感想、これまでの大会での印象的なエピソード



國宗 裕一 さん

学生時代からBE-PAL(アウトドア誌)を愛読していたのでカヌーやシーカヤックにずっと興味があった。偶然にも町が大会を始めるといので飛びついた感じ。

中止は残念だったが、それでも会場にたくさんの参加者が集まって、熱気が感じられた。来年こそは皆で海上でレースを楽しみたいです。

2004年の悪天候の大会では、苦労しながらも完漕できて自信がいった。



國宗 弓穂 さん

ダンナ(当時は結婚前)に誘われて出場。でもなぜかタンデムではなく。その後もずっと別々に出場。おかげで夫婦円満永続き?

中止は残念でしたが、ライブ楽しかったです。運営の皆様予定変更

で大変だったでしょうに、ありがとうございます。今回初タンデムの予定だったので残念なようなホッとしたような…(笑) 来年こそは頑張っって漕ぎます。

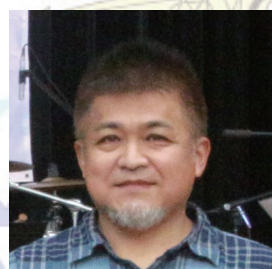
2016年大会は、シングルですごく頑張っって3位と2秒差で4位。須手沖からゴールまで抜きつ抜かれつ全力で漕いだ。まだまだいけるぞ私、と思った。



春山 恵一 さん

仲間がたまたまシーカヤックを購入して遊んでいたら、大会が始まるということで、出てみようというのがきっかけ。仲間が良いカヤックで表彰台に上がっているのを見て、見よう見まねで自分で艇をつくり、表

彰台に上がれるようになってきた。若い人たちに「負けたくない」と思われるのが目標で、励みになっている。10回大会、20回大会は優勝したので、次の節目の大会も楽しみ。海が大荒れて開催した年に、大会1週間前に完成した自前のカヤックで優勝した。今思い返してもあの荒波を漕げたのは神がかったと自分でも思う。



佐藤 潤二 さん

カヤックをやっている友達がカヤックの雑誌で大会を知り、誘ってくれた。いつもフルのシングルで出場。遠方に住んでおり、引越してからもっと遠くなったが、毎年来ている。

毎年後夜祭にいろんな方がゲストで来ていて、とても楽しみにしている。第1回大会も今回も、元ちとせさんを見られて良かった。

毎年同じ宿でお世話になっていて、今ではカヤックを置いていただいている。宿から漕いでスタート地点に行き、終わったら宿まで漕いで帰っている。